



為石小学校の合言葉 「ためし 最高! ~ 地元で学び 地元を活かし 地元とともに行動する子ども ~」



←HPを登録  
してください。



学校だより

# ためし

- 楽しく めあてをもって しっかり学ぶ
- 正しく めあてを しっかり守る
- たくましく めあてに向かって しっかり鍛える

令和6年4月19日号

文責 上久木田雄二



## なり手不足

平成元年4月に、私は大学卒業後すぐに教師になりました。今はないですが、「新興善小学校」が赴任先でした。当時は大量採用時代で、私の記憶では、同期が380人いると思います。

長崎市内の小学校では、少なくとも1名ずつの新任がおり、大きな学校には、2~3名の配置がありました。

右も左も分からない新米教師であった私を育ててくださったのは、学校の同僚よりも、受け持ったクラスの保護者でした。

若造の話を良く聞いてくださいました。指導の至らなさを待ってくださいました。同じ時間や空間を、一緒に楽しんでくださいました。

今更ですが、心から感謝したいと思うほどです。

ところで、もうすでにお気づきの方もいらっしゃるかと思います。今年度本校の職員数は、昨年度に比べ1名減りました。

加配と呼ばれる職員がいなくなったのです。法律(いわゆる標準法)上、子どもの数によって決められる職員数は満たしています。

しかし、子どもの豊かな学びを保障していた「少人数指導」を担当する職員がいなくなったのです。

全国的に叫ばれている「教員不足」の波は、とうとう本校にまで及んでしまったのです。

公教育の崩壊は目の前であるという学者もい

ます。

一人の教員を育てるには、それなりの年数が必要です。すでに教員養成系の学部の学生が、教員採用試験を受ける割合が、50%に満たないと言われています。(長崎大学でやっと60%程度です。)

高校生が教員養成系の大学を目指す環境を整えなければいけません。少なくとも80%程度の教員養成系の学部生が、教員採用試験を受けようと思える職場環境や待遇を整備しなければいけません。

今からコマーシャルをし続けて、何年後に、なり手不足が解消されるのでしょうか。気が遠くなります。

そんな中、本校の明るいニュースと言えば、

新規採用の教員が配置された

ことです。

つい数週間前まで大学生であったことを考えると、傍で仕事を進める姿を見ていると立派だなと思います。

新採の先生が、着任式でのあいさつで、

「小学生のころからなりたかった先生になれて嬉しい。」

と言ってくれました。

私は、何より新採の先生の言葉が嬉しかったのです。そして、この先生が、1年後に、「教師になってよかったです。」と思ってもらえるようにしなければいけないと強く思うのです。保護者の皆さんも地元の皆さんもぜひ協力してください。

